

# 美濃加茂市（岐阜県）

## 福祉と教育の連携

－ 気にかける関係から支援のバトンを未来へつなぐ－



### 1. 基本情報

①自治体・団体名	美濃加茂市役所 福祉課
②住所等	〒505-8606 岐阜県美濃加茂市太田町 3431-1
③圏域の人口、高齢化率	人口：57,118人 高齢化率：23.1%
④生活困窮者自立支援法に基づく事業の実施状況	自立相談支援事業 就労準備支援事業 家計相談支援事業 住居確保給付金
⑤主な事業・活動（④以外）	重層的支援体制整備事業への移行準備事業

### 2. 取り組みの経緯・背景

令和元年度に「福祉総合相談推進コーディネーター設置事業」に取り組みことになったことが、包括的支援体制への取り組みの大きな基点となり、教育分野の先生方と構想を練りながら具体化し、令和3年度から「家族を支える連携会議」を正式に設置した。

### 3. 取り組み概要・実施体制

#### ●家族を支える連携会議の立上げにあたり

- ・学校の先生方と様々な課題を共有すると、学校での生徒の様子はよく見えるが、家庭での様子は見えにくいことに加え、保護者を通じて家庭の状況を把握しにくいと感じていた。一方で福祉職は、学校での様子は見えないが、家庭で過ごす子どもの様子やその保護者の関わりや家族との関係性については良く分かるという状況が分かった。
- ・そこで、それぞれの情報を合わせることで世帯全体を知る機会として「家族を支える連携会議」を立ち上げた。

#### ●連携会議において

- ・会議のスキームとして、個人情報同意がなくとも具体的に協議できる特徴的な会議になっている。
- ・あがったケースをまずは係内で精査し、連携会議に挙げるか従来の会議等で対応するか検討し、必要に応じてケースのつなぎ戻しも行っている。
- ・連携会議に上がったケースにおいては、ケースの概観やアイデア、関わりの経緯、支援の留意点など情報を整理し、現場に持ち帰ったうえで、関わりを直していく。
- ・状況によっては、事前に先生へレクチャーの上、福祉課に支援のしくみがあることを伝えていただくこともある。

- ・なお、個人情報取り扱いに十分な注意をしたうえで共有し、信頼感と安心感をあたえていく。

#### ●未来のために何ができるか考えた連携づくり

- ・子どもたちも成長して、小学校・中学校・就職と環境を変えていくことが分かっている。
- ・これまでは、各ライフステージにおいて困りごとに遭遇してから過去の情報を得て、支援に活かしていくという関わりであった。しかし、本人が次に進むライフステージを想定しつつ、情報を未来につなぐことで切れ目のない支援につながり、課題が小さいときや潜在化しているときから関わりを持つことができ、クライアントの安心感につながり、安心と安全が保障されたコミュニケーションにより本人の肯定感が高まるという副次的効果も期待できる。
- ・直接支援に繋がらずとも、本人がどうすれば安心できるのか、どう関わればよいか共有し「気になる方」を「気にかける存在」へと変えていく。「気にかける存在」へと変わることで、本人（世帯含む）に必要な合理的配慮を提供することができ、伴走型支援の根っことなる「信頼関係」の構築につながる。

## 4. 成果や課題、今後の展開

- ・連携会議を重ねるにあたり、学校以外に助けてもらえるツールがこんなにあったということに気付く先生が多くいらっしゃる。
- ・学校関係者の勉強会などにも出向き、会議の存在を周知し、一人で抱え込まないでというメッセージを届けている。
- ・学校だけでは限界があっても、関係機関が関わることで重層的に繋がりが構築され、支援のヒントが見つかる。
- ・こうして関係性の構築が行われることで、連携や協働の関係性の後押しとなり、学校の先生方と気軽に話せる関係性が構築されている。
- ・教育部局と福祉部局の連携が、児童生徒保護者に対してどのようなメリットがあるのかを丁寧に伝え続けていくことが重要である。
- ・義務教育終了後の生徒（高校進学や高校中退など）の困りごとを把握して、支援につなぐユースソーシャルワークの仕組みの構築が必要である。